

安来市民会館(仮称)基本構想

平成25年6月

安来市

はじめに	1
1. 基本構想作成の背景	2
1) 総合振興計画の位置づけ	2
2) 市民会館に対する市民意識の整理	2
3) 市民会館に関連する公的施設の構想	4
2. 現在の安来市民会館の状況	5
1) 現在の市民会館に関する基礎的な情報	5
2) 現在の市民会館に関する耐震診断調査等の概要	7
3. 安来市内の既存ホール、会議施設の状況	8
4. 市民会館建設の理念	9
5. 市民会館建設に関わる基本構想	10
1) 市民会館建設地の考え方	10
2) 計画敷地へのアクセス	13
3) まちづくりと土地利用	13
4) 建物の配置計画、敷地内の動線計画	14
5) 市民会館の規模、機能	15
6. 市民会館の運営	
1) 運営の基本的な考え方	17
2) 運営組織	17
3) 運営経費	17
7. 事業計画	
1) 関連法令の整理	18
2) 概算事業費	18
3) 工程計画（設計～工事～竣工までの流れ）	19
4) 市民参画による検討の進め方	19
○参考資料	20

はじめに

- ・安来市安来町に所在する現在の安来市民会館は昭和41年に建設され、築後46年を経過している。建物の耐震性の不足、アスベストといった安全性の問題を第一として、高齢者、障がい者へも配慮したバリアフリーに関する設備の不備、駐車場の慢性的な不足が問題となっている。
- ・安来市には民間も含めた大規模集会・大規模集客施設は現在の安来市民会館しかなく、平成16年に旧安来市、広瀬町、伯太町の1市2町が合併したことにより地域も広域的になり施設そのもののキャパシティ（収容力、定員）が問われるようになってきた。
- ・ホールの機能に関して言えば、現代の音楽、演劇、講演等に即したホール設備、観客席の構成において、様々な課題を有している。
- ・モータリゼーションが進む中で、旧町部からの自家用車でのアクセスのしやすさ、駐車場を十分に確保していくことも、新たな市民会館に求められる大きな要素となっている。
- ・新市のまちづくりの一翼を担う公共施設として広域的な視点での市民会館の建て替えが現在、重要視されている。本書は、このような社会状況を背景として、新たな（仮称）安来市民会館の基本構想を示すものである。

1. 基本構想作成の背景

1) 総合振興計画の位置づけ

- ・平成23年に策定された安来市総合計画後期基本計画においては、「ひとが輝く活力発揮のまちづくり（教育・文化の充実）」を施策の基本方向の一つとして位置付けており、この中で「社会教育の充実」「文化活動の推進」を施策の体系に示している。さらに具体的には以下の取り組みを示している。

- 芸術・文化活動の支援
- 史跡・文化施設等の整備拡充

- ・市民会館の建設については具体的には記載されていないが、上記の「文化施設等の整備拡充」の中に含まれるものである。

2) 市民会館に対する市民意識の整理

①総合計画策定におけるアンケート調査から

- ・平成17年7月に実施された安来市総合計画住民アンケートにおいて、市民会館に関する設問及び回答を以下に示す。

- 図書館やホール等文化施設に対する満足度（※図書館は平成14年度建設）
満足 8.1% やや満足 8.8% ふつう 27.2%
やや不満 15.9% 不満 10.9% 無回答 29.1%
- 教育・文化振興を図るために重点をおいたらよいと考えるもの
（8項目から2項目を選択）
生涯学習や文化活動の強化、充実 14.9%
- 自由意見
 - ・文化ホールの設置（市民会館老朽化のため）
 - ・文化的施設がない
 - ・文化芸術鑑賞の機会が少ない
 - ・安来節演芸館→収容人数など中途半端な建物ではないか？新しい市民（文化）会館の建設を希望する

②市民会館リニューアル検討における市民団体ヒアリングから

- ・平成24年度に市民会館の現在地でのリニューアルの可能性を検討するために、市内7つの団体に対してヒアリング調査を実施している。この中で、市民会館の新築、移転に関する意見を抽出する。

○全般

- ・部分的改修としての予算が3億円と以前に出されましたが、中途半端なことはやめてほしいです。しっかりとしたホールをお願いしたいです。

○ホールの規模

- ・ホールの規模は1200席程度のものが必要と考える。
- ・建て替えた方がよい（1000人～1200人ぐらいのキャパが必要）
- ・狭いとは思わない。600席さえあればよいのでは？
- ・せめて500人は収容でき、コンサートも開けるホールであるが、各種大会等に向くホール

○移転建て替え

- ・別な場所で建て替えすべきだ。車での利用が多い
- ・場所をかえたほうが良い
- ・今の場所でベストなのか。昔と違うのではないか。場所をかえるべき。
- ・安来節演芸館のとなりに建てては？
- ・現在地で市庁舎も建て替えられるとすれば駐車場のスペースが不足する。市庁舎が残るとすれば逆に不便になると思う。

○駐車場

- ・駐車場は絶対必要。現在はとても不便である
- ・駐車場は必要。他の施設との関連で考える。
- ・駐車場が少ない。（場所をかえたほうがよい）

○特徴、役割分担

- ・中海圏域で連携して取り組むべき。ある部分で特化して特徴を出すべき（役割分担）
- ・コンセプトを持って整備すべき
- ・松江のプラバホールを目標にしていきたい。
- ・安来市に人を呼べるような施設改修であってほしい

○機能

- ・軽食ができるカフェの設置

③庁舎建設計画策定時におけるアンケート調査から

- ・平成20年に、切川地区への新庁舎建設を前提として、新庁舎に関する市民アンケートが実施されている。このときに出された、庁舎内に市民が利用できるホール、会議室的な機能に関わる自由意見を整理する。

○ホールについて

- ・収容人数が多い多目的な「ホール」を作ってほしい。期待しています。
- ・大きな催し場を作ってください。多目的機能をもった設計を希望します。（市役所機能と住民が利用できる機能をもった建物）

＜市民団体意見からの考察＞

- ・駐車場の問題も含めて別の場所に新築あるいは大規模改築を求める声が多数あった。さらに中途半端な部分的なリニューアルにお金を使うのであれば、その必要はないという意見も多かった。
- ・メインホールの規模としては 500～1200 席と幅広い意見が出されている。

2. 現在の安来市民会館の状況

1) 現在の市民会館に関する基礎的な情報

①位置、配置、駐車場等

位 置	安来市安来町 878 番地 1
開 館	昭和 41 年 12 月 11 日
敷地面積	5,891 m ²
延床面積	2,630 m ²
駐車台数	59 台（うち臨時 14 台）



②建設年、規模、席数

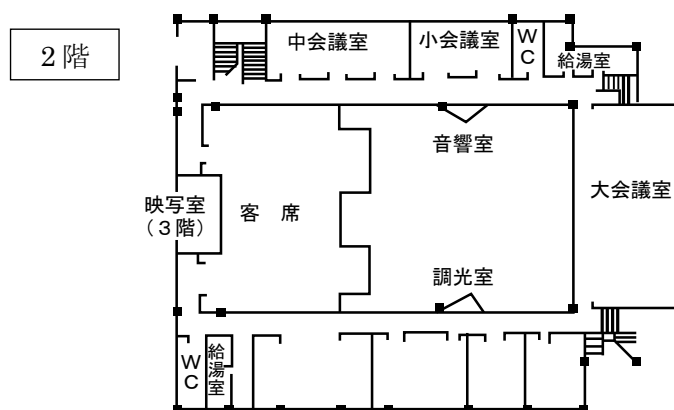
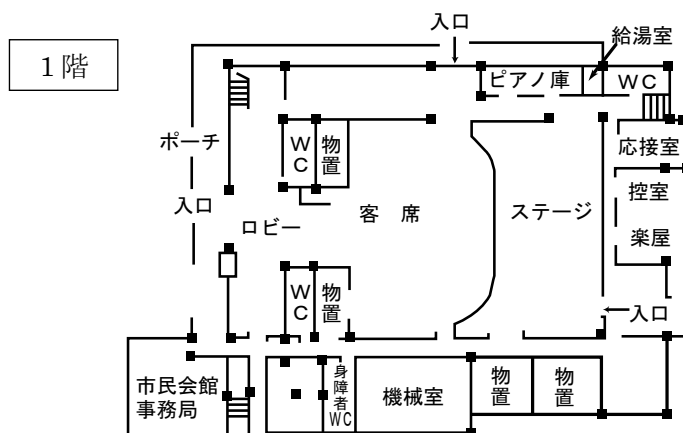
●ホール

客 席 数	1 階：折イス 280 席 (247.4 m ²)
	2 階：固 定 320 席 (265.2 m ²)
	立見：100 席

●大会議室 定員 130 人 仕切りカーテン

●中会議室 定員 50 人 仕切りカーテン

●小会議室 定員 35 人



<使用料>

区分 時間	午前 9～12	午後 13～17	夜間 18～22	昼間 9～17	午後・夜間 13～22	全日 9～22	収 容 人 員
ホール	5,000 円	6,600 円	8,200 円	11,600 円	14,800 円	19,800 円	700 人
大会議室	1,500 円	2,000 円	2,500 円	3,500 円	4,500 円	6,000 円	130 人
中会議室	700 円	1,000 円	1,300 円	1,700 円	2,300 円	3,000 円	50 人
小会議室	600 円	800 円	1,000 円	1,400 円	1,800 円	2,400 円	35 人

③利用の状況

<平成 23 年度利用状況>

		コンサート	文化・講演会等	映画上映	演劇	安来節	物品販売	その他講演会等	集会・研修等	会議等	その他	合計	稼働率 (%)
大ホール 600人	日数	25	2	2	3	3	11	4	18	2	8	78	21.4
	延べ利用者	6,490	1,200	800	1,150	1,100	5,650	2,315	3,565	330	1,700	—	—
	平均利用者	260	600	400	383	367	514	579	198	165	213	—	—
大会議室 130人	日数	0	0	0	0	3	16	0	21	25	44	109	29.9
	延べ利用者	0	0	0	0	224	1,935	0	961	1,255	3,635	—	—
	平均利用者	0	0	0	0	75	121	0	46	50	83	—	—
中会議室 50人	日数	0	0	0	0	0	49	0	32	56	8	145	39.7
	延べ利用者	0	0	0	0	0	1,103	0	844	1,046	250	—	—
	平均利用者	0	0	0	0	0	23	0	26	19	31	—	—
小会議室 35人	日数	0	0	0	0	2	90	0	11	99	6	208	57.0
	延べ利用者	0	0	0	0	16	1,949	0	112	884	36	—	—
	平均利用者	0	0	0	0	8	22	0	10	9	6	—	—

※稼働率：日数／365 日

＜平成 24 年度利用状況＞

		コンサート	文化・講演会等	映画上映	演劇	安来節	物品販売	その他講演会等	集会・研修等	会議等	その他	合計	稼働率(%)
大ホール 600人	日数	19	1	3	4	2	4	4	18	2	14	71	19.5
	延べ利用者	4,070	350	850	1,160	550	1,800	1,850	5,980	320	2,106	—	—
	平均利用者	214	350	283	290	275	450	463	332	160	150	—	—
大会議室 150人	日数	0	0	0	0	1	10	0	20	13	38	82	22.5
	延べ利用者	0	0	0	0	50	1,140	0	1,078	574	6,031	—	—
	平均利用者	0	0	0	0	50	114	0	54	44	159	—	—
中会議室 50人	日数	0	0	0	0	0	33	0	29	36	16	114	31.2
	延べ利用者	0	0	0	0	0	800	0	599	800	1,220	—	—
	平均利用者	0	0	0	0	0	24	0	21	22	76	—	—
小会議室 35人	日数	0	0	0	0	0	81	0	13	40	9	143	39.2
	延べ利用者	0	0	0	0	0	1,257	0	95	427	57	—	—
	平均利用者	0	0	0	0	0	16	0	7	11	6	—	—

※稼働率：日数／365 日

＜利用状況からの考察＞

- ・大ホールの稼働率は平成 23 年度が 21.4%、平成 24 年度が 19.5%と必ずしも高い数値ではない。建物及び音響施設等の老朽化がひとつの要因となって利用者が離れているということも考えられる。
- ・また小会議室が最も稼働率が高く、中会議室、大会議室の順になっていることが分かる。

2) 現在の市民会館に関する耐震診断調査等の概要

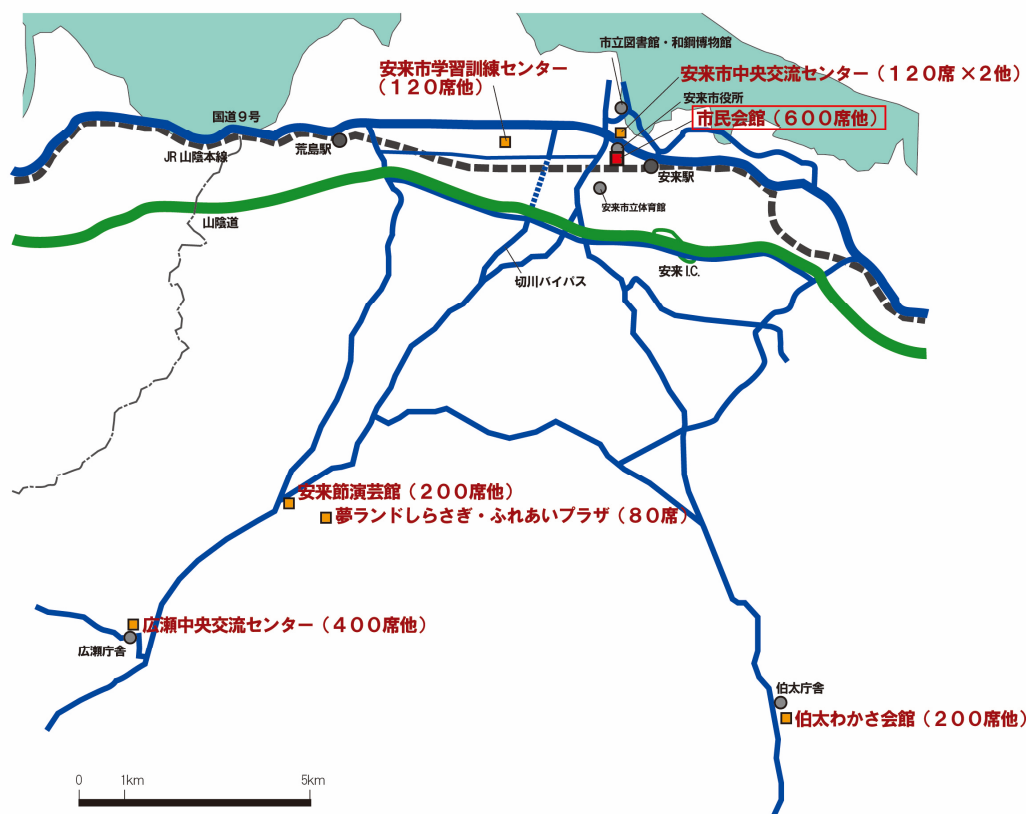
- ・現在の建物構造は建築当初のままであり、昭和 56 年新耐震基準（建築基準法）以前の建物である。このため、平成 20 年 8 月から 12 月にかけて耐震診断調査を行い、その結果、現在の建物について I s 値¹（構造耐震指標）が基準の 0.6 以下となる、1 階：0.50、2 階：0.47 であることが判明した。
- ・平成 17 年 8 月には天井部分にアスベストの使用が確認されたため、一時的に使用を中止し同年 9 月に飛散防止対策を実施した。

※¹地震の揺れに建物が耐える耐震力を示す指標。1981 年以前の旧耐震基準に基づいて建てられた建物の強さを示すために考案された。0.6 以上は現在の耐震基準を満たし、0.3 未満は震度 6～7 程度の揺れで倒壊の危険性が高いとされる。

3. 安来市内の既存ホール、会議施設の状況

- ・現在の市民会館小ホールが最も席数が多く 600 席、次に広瀬中央交流センターに 400 席のホールがある。100～200 席の会議室のある施設は各地に立地している
- ・現在の市民会館が閉鎖した場合、地域的なバランスからすると、新たな市民会館は旧安来地域への立地が妥当と考えられる。

立地	施設名	ホールと席数	会議室等
旧安来地区	安来市民会館	中ホール 600 ・固定 320 ・移動 280	大会議室 中会議室 小会議室
	安来市学習訓練センター		実習室 160 m ² O A 教室 88 m ² 視聴覚室 175 m ² (100 名収容) 研修室 3 室 67 m ² ～50 m ² 市民教室 50 m ² 休憩室 31 m ² 研修室兼会議室 37 m ²
	安来中央交流センター		講義室 207 m ² 音楽室 207 m ² ステージ有 調理実習室 70 m ² 和室 8 畳 2 室
広瀬地区	広瀬中央交流センター	中ホール 400	調理実習室 40 m ²
	安来節演芸館	小ホール 200	
	夢ランドしらさぎ・ふれあいプラザ		研修室 220 m ² 分割可能ステージ有 交流室 60 m ² ×3 室ステージ有 機能訓練室 80 m ² 程度 研修室 50 m ² 陶芸室、調理室等
伯太地区	伯太わかさ会館	小ホール 200	



4. 市民会館建設の理念

- ・安来市総合計画では、「元気・いきいき・快適都市」を市の将来像とし、教育・文化の充実に関しては「ひとが輝く活力発揮のまちづくり」を掲げている。
- ・安来市は工業のまちという顔がある一方で、安来節をはじめとした独自の文化を有し、音楽活動も盛んである。新市民会館の建設は、市の将来像を具現化するまたとない機会であり、これからの安来市の顔となるであろう。
- ・また、平成16年に旧安来市、広瀬町、伯太町が合併し、新安来市となったが、平成26年には合併10年を迎える。新市民会館は、「ひとが輝く」舞台となる安来の中心施設となることが期待される。
- ・これらを前提として、新市民会館の理念、整備の基本的な考え方を以下に掲げる。

〔新市民会館の理念〕

＜演じる＞	市民が輝き、いきいきとした活動の表現の場となる
＜観る・聴く＞	市民の交流の場となり、多様な文化に触れることができる場となる
＜集う＞	新しい安来の顔となり、市民が気軽に、楽しく訪れることができる場となる

〔整備の基本的な考え方〕

- 合併後の広域となった安来市のいずれの地域からもアクセスしやすく、利用しやすい立地とする。
- 車での来訪者に十分対応した駐車場を確保する一方で、自家用車を持たない市民にも配慮し、公共交通（路線バス）でのアクセスを確保する。
- 安来市内の様々な団体が、音楽、演劇、講演会など様々な用途で利用することができるものとする。
- 近隣市にはない安来市ならではの特徴的な機能を持たせることで、市民の利用はもとより近隣市からも利用してもらえるような施設を目指す。
- ホールだけの単一機能ではなく、会議室、展示室など複合的な機能を持たせることで、様々な市民が利用できるようにする。
- 屋外においては、十分な緑地を確保し、公園的な雰囲気とすることで、ホールなどでのイベントがない日、時間においても市民が気軽に立ち寄れるようにする。
- 市民会館の整備が、将来、周辺のまちづくりに刺激を与え、相互に連携できるようにする。
- 貸し館だけでなく、自主事業を積極的に行い他市からも人を呼び寄せることができるようにする。
- ここ数年で、安来第一中学校改築、消防庁舎建設、給食センター建設、市庁舎建設等、大型事業が集中するため財政面で中長期財政見通しとの整合性を図る必要がある。

5. 市民会館建設に関わる基本構想

1) 市民会館建設地の考え方

①現在地での小規模改修と移転に関する検討

- ・現在地での大規模建て替えについては、これまで具体的な検討は行われていないが、平成24年度に、現在の市民会館を小規模改修によって継続使用することを前提に、今後どのような方針をもって整備していくかを示すため、市民や関係団体から意見聴取を行った。
- ・この意見聴取では、老朽化した現在の市民会館を中途半端に改修すれば、中途半端なものとなり、お金の無駄になるという指摘がされており、さらに駐車場の不足などの問題から、現在地からの移転新築の声が多く出されている。
- ・市民会館の現在の敷地面積が5,891 m²、駐車場台数59台となっており、600席に対して駐車場が不足していることは確実である。また、安来市役所の現在地での建て替えが決定事項となっており、隣接する市役所敷地が将来的に駐車場として活用できるという可能性はなくなっている。
- ・このため本基本構想においては、現在地からの移転建て替えを基本的な考えとする。

②移転新築の候補地の条件

- ・(仮称) 安来市民会館の移転新築先として考えられる条件を以下に整理する

◎交通利便性

- ・安来市全域からアクセスしやすく分かりやすい交通アクセスである。
- ・既存の路線バスのルート上にある。あるいは路線バスルートの変更がしやすいこと。

◎敷地規模、形状

- ・車での来訪者が多数であることを見越し、十分な駐車場のある敷地面積を確保することができる。目安として現在の敷地の3倍(2ha)以上を確保することができる。
- ・整形な敷地で建物の配置計画が容易。

◎都市計画上の整合性

- ・市街化区域、用途地域など都市計画法上の土地利用規制との整合性がとれている。
- ・土地開発に関わる各種法的な認可手続きの期間を見通すことができる。

◎周辺環境への影響

- ・来訪する車の往来により、交通渋滞を起こす恐れがない。

◎周辺へのまちづくりへの波及

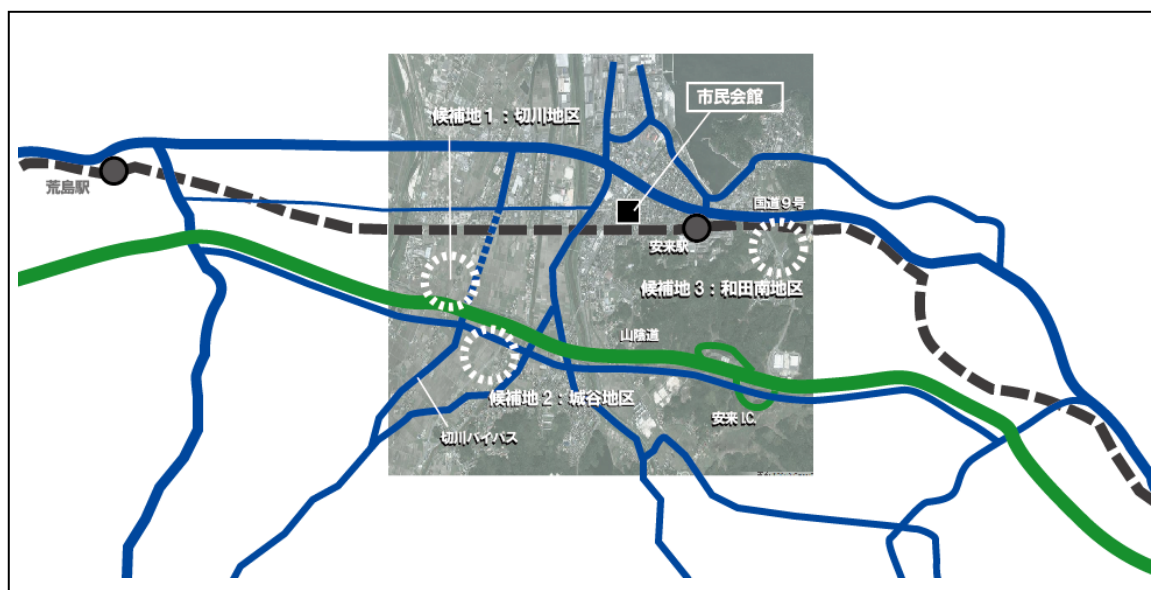
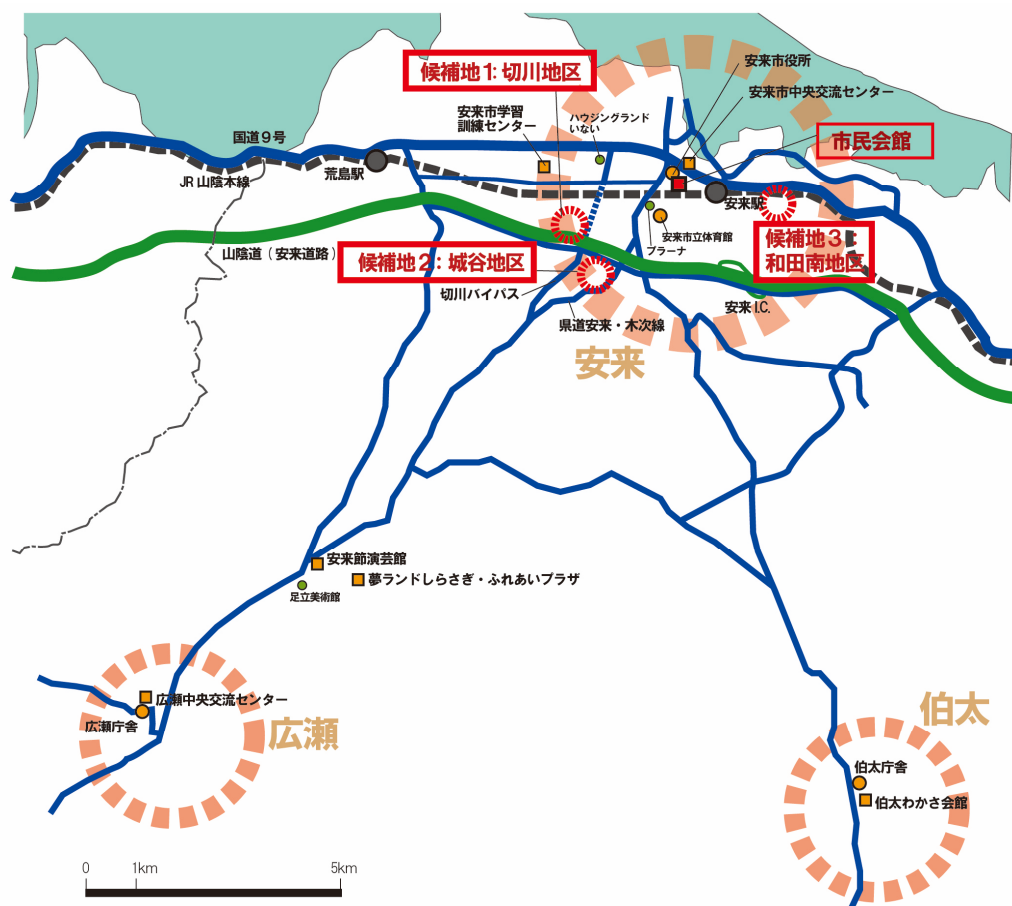
- ・市民会館が建設、運営されることで、周辺地域を活性化させ、まちづくりとしての波及効果がある。

◎防災拠点機能

- ・水害、土砂災害の恐れが少なく、地震に強い。
- ・災害時の避難拠点としてのアクセス。

③移転新築の候補地とその評価

- ・上記の条件に該当する候補地を現在の市民会館に近い立地であり、旧安来市の区域内から候補1：切川地区、候補2：城谷地区、候補3：和田南地区の3か所を選定し、その評価を行った。
- ・次ページに示す比較検討の結果、総合的に評価が高い候補地1：切川地区を選定する。



■候補地の比較評価

	候補地 1：切川地区	候補地 2：城谷地区	候補地 3：和田南地区
交通利便性	◎ ・将来開通が予定される切川バイパスと安来道路に隣接し利便性に優れており、市外からの来訪者にも分かりやすい ・広瀬、伯太からのアクセスも良好 ・敷地から路線バスの運行する県道安来・木次線までは約500m。	○ ・県道安来・木次線に接し利便性に優れるが、市外からの来訪者にはやや分かりにくい。 ・広瀬、伯太からのアクセスも良好。 ・県道安来・木次線は幅員が狭く、渋滞発生の要因をつくる恐れがある。 ・敷地が接する県道安来・木次線には路線バスが運行している。	○ ・国道9号から少し南にあり、やや分かりにくくJRの踏み切りを越える必要がある。ただし、安来駅からは徒歩で10分程度の距離にある。 ・広瀬、伯太からのアクセスは候補地1、2に比べるとやや劣る。 ・国道9号沿いには路線バスが運行する。
敷地規模、形状	◎ ・2ha（現在の市民会館敷地の約3倍）以上の敷地確保可能、土地は整形	○ ・2ha以上の敷地確保可能、土地は不整形	○ ・2ha以上の敷地確保可能、土地は不整形
都市計画上の整合性	○ ・現在は市街化調整区域だが、将来の市街化が見込まれている。 ・以前の市庁舎建設候補地として開発許可に関わる事前協議が県との間で進められており、都市計画法上の手続きの成立を見通すことができる。	△ ・現在は市街化区域の第2種住居専用地域であり、劇場用途として建築することができないため、用途変更など一定の都市計画上の手続きが必要となるが、その成否について見通すことができない。	△ ・現在は市街化区域の第2種住居専用地域であり、劇場用途として建築することができないため、用途変更など一定の都市計画上の手続きが必要となるが、その成否について見通すことができない。
周辺環境への影響	◎ ・周辺には民家が少なく、車の増加等による環境への影響は少ないと見込まれる	△ ・周辺には民家があり、車の増加や人の往来による環境問題が発生する可能性がある。	△ ・周辺には民家があり、車の増加や人の往来による環境問題が発生する可能性がある。
周辺まちづくりへの波及	◎ ・将来的に切川バイパスの開通が予定されており、市民会館の開館とあわせて、バイパス沿いを軸とした沿道利用が期待される。	○ ・敷地周辺の県道安来・木次線沿いには、まとまった空き地がなく、商業施設の出店などの期待は限られる。	○ ・敷地周辺にはまとまった空き地がなく、商業施設の出店などの期待は限られる。
防災拠点機能	○ ・防災時のアクセス性に優れている。 ・徒歩での避難には距離があり難がある。 ・洪水の際の浸水想定は1.0m～2.0m未満	△ ・防災時のアクセス性に優れているが、前面道路の幅員が狭いことに難あり。 ・洪水の際の浸水想定は2.0m～5.0m未満	△ ・防災時のアクセス性は候補地1、2に比べるとやや劣る。 ・洪水の際の浸水想定は2.0m～5.0m未満

2) 計画敷地へのアクセス

①車でのアクセスと道路整備

- ・計画敷地へのアクセスは、安来道路に並行して走る側道及び南北を走る切川バイパスとなる。切川バイパスは県道安来・木次線から安来道路まで（計画敷地南側）まではすでに開通しているが、安来道路から国道9号までの区間については未整備となっている。
- ・市民会館の整備事業とあわせて、バイパスの事業主体である島根県に対して道路整備の推進をこれまで以上に積極的に働きかけを行い、早期に完成することが望まれる。
- ・バイパスが完成することによって、広瀬、伯太方面からのアクセスが格段に向上するとともに、旧安来地区のすべての地区からのアクセス性も高まる。

②路線バスでのアクセス

- ・公共交通（路線バス）については、現在、安来駅と広瀬方面を結ぶ路線が設定されており、県道安来・木次線を通っている。この路線を迂回するバス路線を設けるか、新たに切川バイパスを通る路線を設けるなどし、自家用車を持たない市民に対する移動手段を確保する必要がある。

3) まちづくりと土地利用

- ・今後整備が予定される切川バイパスを通じて国道9号、また安来道路の側道を通じて県道安来・木次線へとつながる主要幹線道路は、将来的な安来市のまちづくりの軸となっていくものと想定される。
- ・特に切川バイパス沿いについては、市民会館とつながるかたちで、賑わいの通りとなっていくことが期待される。



4) 建物の配置計画、敷地内の動線計画

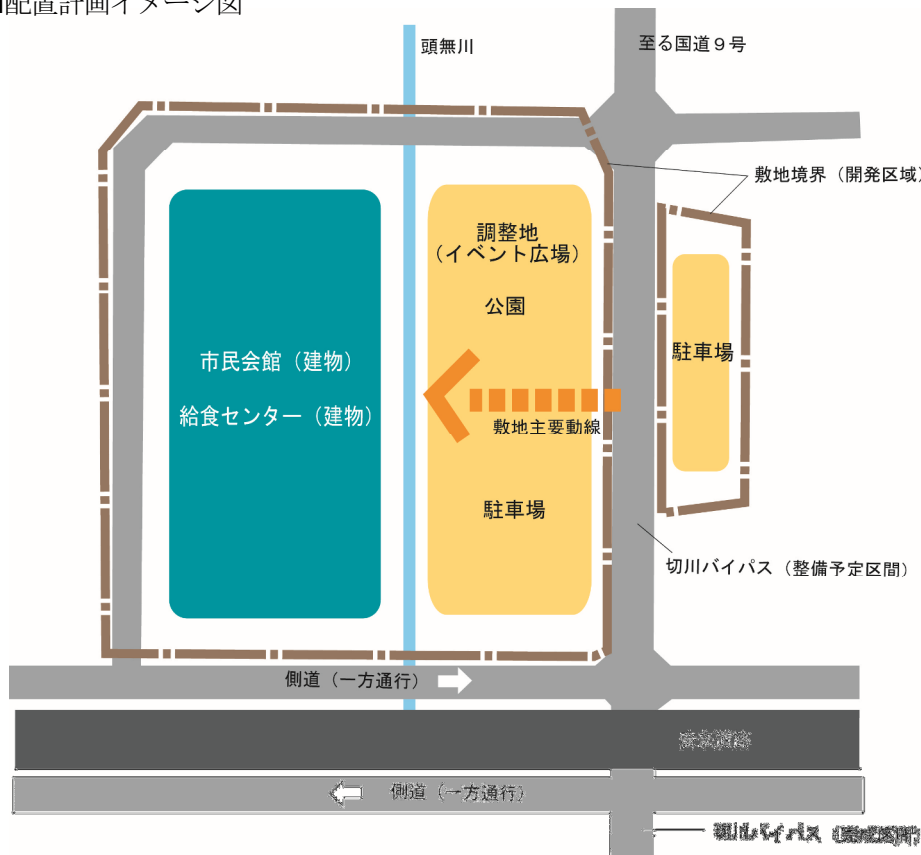
①市民会館と給食センターと一体的に整備

- ・切川地区の下図の範囲（3.9ha）を開発区域として建物、駐車場、緑地、調整池、道路等の配置を検討する。
- ・なお、（仮称）安来市給食センター整備基本構想によれば、（仮称）安来市民会館の整備と同時期に給食センターの整備が予定されていることから、市民会館の予定敷地と給食センターの敷地を一体的に開発し、同一の開発敷地内において、両施設の配置をする。
- ・両施設を同一敷地とすることで、緑地や駐車場を相互に有効利用できるメリットが生まれる。

②建物の配置イメージ

- ・敷地のほぼ中央に南北に流れる水路があり、この水路をはさんで高低差が約1mあることから、切川バイパス沿いとなる東側を駐車場及び調整池に、西側に建物を配置する。
- ・切川バイパスの東にも細長い敷地が確保できる予定となっているが、この敷地は職員等の駐車場を想定する。
- ・駐車場については、市民会館のメインホールの席数×0.5の駐車台数が確保できるよう検討を行う必要がある。なお駐車場台数は、調整池の臨時的な駐車場としての利用や、給食センター職員の駐車場台数も含めて検討を行う必要がある。

■配置計画イメージ図



5) 市民会館の規模、機能

①島根県内自治体のホールからの考察

- ・島根県内の自治体で安来市と同規模の人口を擁する自治体として、旧平田市、江津市をあげることができるが、旧平田市には 813 席の平田文化会館、江津市には 702 席の江津市総合市民センターがある。
- ・安来よりも人口の小さな自治体のホール席数を見ると、旧木次町のチェリバホールが 500 席、旧大社町の大社文化プレイスうらら館が 608 席、斐川町中央公民館の 700 席などをあげることができる。

②ホールの席数、会議室の数・広さのパターン検討

※ホールの定義は以下のとおり

大ホール：1,000 席以上 中ホール：500 席以上 1000 席未満 小ホール：500 席未満

- ・ホールの位置付け（ホールの規模について課題整理を行う）

案 1：中ホール 600 席

- ・現在の市民会館と同規模、機能
- ・大規模演奏会、講演会等はむずかしい
- ・事業費、維持費を抑制、稼働率を高める

案 2：中ホール 800 席

- ・現在の市民会館よりも 3 割程度規模拡大、多目的な利用
- ・中規模の演奏会、講演会に対応
- ・事業費、維持費は中程度

案 3：大ホール 1000 席

- ・現在の市民会館よりも倍程度に拡大、多目的な利用
- ・大規模の演奏会、講演会に対応
- ・事業費、維持費が大きくなる、稼働率の低下、駐車場の確保が課題

案 4：大ホール 1200 席

- ・現在の市民会館よりも倍程度に拡大
- ・大規模の演奏会、講演会に対応
- ・事業費、維持費が大きくなる、稼働率の低下、駐車場の確保が課題

- ・現在のホールはいわゆる中ホールに分類される。
- ・ここ数年の利用状況をみると平成 24 年度が 71 日で稼働率は 19.5%（日数/365）、平成 23 年度が 78 日で稼働率は 21.4%（日数/365）となっている。
- ・600 席のホールが満席となる事例は年間 3 回～5 回程度となっている。また、元々ホール数の関係から他施設で事業を開催している事例や可能性も考えられることから、現状の 600 席では席数が不足していると言わざるを得ない。
- ・また、現在の安来市には民間も含めた大規模集会・集客施設は現在の安来市民会館しかなく、施設そのもののキャパシティ（収容力、定員）が問われている。

- ・以上、ホールの席数は様々なことを想定しながら基本計画を策定する必要がある。
ただし、1000 席以上のホールとなれば他市の事例にもあるように、市民の使いやすさの観点からは使いにくいと言わざるを得ないため、小ホールの併設についても併せて検討を行う必要がある。

③付帯施設について

- ・喫茶店、あるいは喫茶コーナーについて検討を行う必要がある。ただし、運営主体の確保が課題となる。
- ・安来は、河井寛次郎を輩出するなど、文化のまちとしても知られている。陶器をはじめとして様々な作品を展示する空間の確保について検討を行う必要がある。
- ・小ホールは多目的利用とし、パントリー等の付帯設備についても検討を行う必要がある。

6. 市民会館の運営

1) 運営の基本的な考え方

- ・安来市民の様々な活動発表の場であることが基本であり、利用しやすい設備の確保や柔軟な運営体制をつくっていく。
- ・貸し館だけでなく、自主事業を積極的に行い他市からも人を呼び寄せることができるようにし、外部から質の高い音楽、舞台芸術を招致することで、市民の芸術文化に対する満足度を向上させる。

2) 運営組織

- ・開館当初は、施設の維持管理費等が十分に把握できないことから、市の直営を想定するが、数年後には民間の柔軟な運営手法を期待し、指定管理への移行についても選択肢として考えられる。
- ・「市民会館運営委員会」などの中立的な運営組織を設けて、館全体の運営のあり方や、自主事業の企画などについて意見、提言できる仕組みについて検討を行う必要がある。
- ・友の会制度、市民出資制度、市民の自主運営制度等についても検討を行う必要がある。

3) 運営経費

①建物の維持管理費

- ・建物の維持管理に関わる費用（人件費、事業費は除く）としては、社団法人全国公立文化施設協会の「劇場・音楽堂等の活動状況に関する調査報告書」の事例から、公立施設の全国平均で年間概ね 7,000 万円～13,000 万円という実績がある。

②ソフトに関わる運営費用

- ・事業関連費としては同じく、社団法人全国公立文化施設協会の「劇場・音楽堂等の活動状況に関する調査報告書」の事例から、公立施設の全国平均で年間概ね 1,500 万円～6,500 万円という実績がある。

③人件費に関わる運営費用

- ・人件費としては同じく、社団法人全国公立文化施設協会の「劇場・音楽堂等の活動状況に関する調査報告書」の事例から、公立施設の全国平均で年間概ね 1,700 万円～5,200 万円という実績がある。

④全体運営費用

建物の維持管理費、ソフトに関わる運営費用、人件費関わる運営費用を合計すると、全体運営経費として 10,200 万円～24,700 万円程度が想定される。

7. 事業計画

1) 関連法令の整理

法律名	記載事項
農地法	土地収用法第3条第31号、第32号に該当する事業であれば、農地法上許可不要
消防法	消防法第20条第2項の規定に基づき、開発区域内に消防水利施設を設置すること
農業関連法	当該地は現在「安来市庁舎」の用途で農用地区域から除外しているため、編入を行った後、改めて今回の事業の用途で除外の手続きをとること
建築関連法	松江圏都市計画の変更（安来市庁舎地区計画の廃止）後に、都市計画法の適合証明を受け建築基準法第6条による確認申請をすること
	接道について島根県建築基準法施行条例第6条の規制がかかる

2) 概算事業費

①建築費

- ・平成22年～24年の間に竣工した他市における市民ホール建設の例からは、竣工実績として1㎡あたり50万円～70万円となっている。

建築費としては、ホールの席数、会議室などの付属室の有無によって面積が大きく変わってくるため中長期財政見通しとの整合性を図る必要がある。

その他、用地取得費、造成費が必要となってくる。

（他市の事例については21Pを参照）

3) 工程計画（設計～工事～竣工までの流れ）

平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
地区計画廃止手続き ／農振除外手続き	—	—	—
敷地調査、造成基本設計、造成設計	造成工事	造成工事／周辺整備（構内外道路、公園、駐車場）	
事業認定等事前協議	—	—	—
基本計画 建物基本設計	建物実施設計 建築確認完了	建物建築工事	竣工

4) 市民参画による検討の進め方

①検討委員会の設置

- ・音楽団体、地域組織、経済団体の代表などから構成される、安来市民会館建設検討委員会を設置し、基本構想をもとに具体的な計画の中身について検討を行い基本計画に反映させていく。

②市民の意見の収集、集約の方法

- ・議論を深め、より創造的なアイデアを出す場として、ワークショップを実施することも検討する。ワークショップへの参加者は団体からの呼びかけ、一般市民への呼びかけを行い誰もが参加できるようにする。

③設計プロポーザルの実施

- ・市民会館の建物の設計においては、設計プロポーザルを実施することが望ましい。一定の設計実績を持つことを条件として、より開かれた場により設計者、ならびに設計案を選定する。
- ・その際には、建築の専門家等を含む設計プロポーザルの審査委員会を設けることも必要となる。

④検討のスケジュール

- ・平成25年6月に検討委員会を立ち上げ、10月までの間に合計4回程度の検討委員会を開き、この間に基本計画を策定する。なお、7～8月には視察の実施を検討する。
- ・アンケート、ワークショップは、平成25年7月～10月の間に実施。
- ・設計者は、平成25年6月～9月にかけて選定の手続きを踏み10月に決定、11月～平成26年3月までを基本設計業務の期間とする。

参考資料

1) 島根県、鳥取県内の公共ホール事例（別紙）

2) 安来市報（平成25年4月号）・市庁舎建て替え、市民会館建設についての記事

平成25年度で基本設計、敷地の地質調査を実施します。併せて、切川地区計画について、かねてよりその有効な土地利用策を総合的に検討していましたが、現行の地区計画を廃止した上で、新たに市民会館と学校給食センターを整備することが最善であると判断しましたので、諸手続きを進めていきます。学校給食センターは、平成28年度での供用開始を目指し、平成25年度は、給食センター建設審議会（仮称）を開催し、基本方針の決定、基本計画の策定を行います。市民会館についても、新たに市民会館建設検討委員会を設け、施設建設に向けた議論を行います。

事業の推進にあたっては、議員並びに市民の皆さんの意見を取り入れながら、推進していく所存です。

3) 平成25年度当初予算（一般会計）主要施策 プレス発表資料（平成25年1月）

1. 参加と交流のまちづくり

21億7,705万円



市庁舎等建設事業

35,000 千円

庁舎建設事業

●事業内容	
安来庁舎基本設計	20,000 千円
安来庁舎敷地地質調査	10,000 千円
切川地区事業計画等作成業務	4,000 千円
事務費	1,000 千円

●事業スケジュール

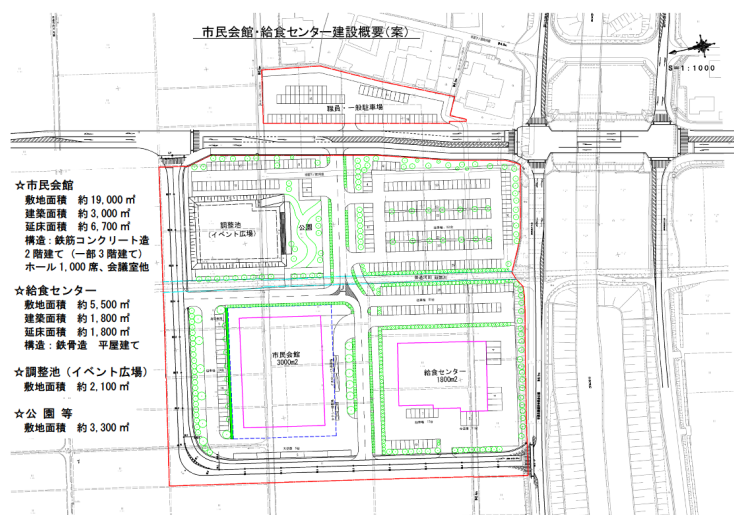
平成25年度	基本設計、敷地地質調査、実施設計など
平成26年度	3号棟等解体、造成工事、建築工事
平成27年度	建築工事、1号棟解体
平成28年度	付属棟建築工事、市民会館解体工事、市民会館跡地等外構・周辺整備



安来庁舎1号棟

切川地区開発事業

●全体事業費（平成25～28年度）	42億円（概算）
用地・造成費	9億円、建設費 33億円
●整備スケジュール	
平成25年度	基本計画策定、基本設計
平成26年度	用地取得・造成、実施設計、給食センター着工
平成27～28年度	市民会館着工、建築工事完了、周辺整備



4) 近年建設された他市市民ホールの建設事業費

市民ホール建設に関わる経費として、これまでに整備された公立文化施設の事例から1㎡あたり50～70万円となっています。

※建設費に含まれるもの

建築費、各種設備（電気、空調、給排水衛生、舞台機構、舞台照明、舞台音響等）

※建設費に含まれないもの

各種備品費（家具、什器、舞台備品、楽器等）、外構整備費（駐車場、樹木等植栽）、用地取得費

A 市基本計画

	座席数	床面積 (A)	概算事業費 (B)	㎡単価 (B/A)
大ホール	1,200 席	12,000 ㎡	60 億円程度	50 万円
小ホール	300 席			

B 市基本計画

	座席数	床面積 (A)	概算事業費 (B)	㎡単価 (B/A)
大ホール	1,000 席	6,000 ㎡	40 億円程度	66.7 万円
小ホール				

C 市基本計画

	座席数	床面積 (A)	概算事業費 (B)	㎡単価 (B/A)
大ホール	600 席	4,000～5,000 ㎡	20～30 億円程度	50～ 60 万円

D 市基本計画

	座席数	床面積 (A)	概算事業費 (B)	㎡単価 (B/A)
大ホール	1,200 席	9,400 ㎡	56.4 億円程度	60.0 万円
小ホール	300 席			

E 市基本計画

	座席数	床面積 (A)	概算事業費 (B)	㎡単価 (B/A)
大ホール	1,200 席	7,000～ 7,500 ㎡	40 億円程度	53.3～57.1 万円

F 市基本計画

	座席数	床面積 (A)	概算事業費 (B)	㎡単価 (B/A)
大ホール	600 席	3,700 ㎡	19.3 億円程度	52.2 万円

G 市基本計画

	座席数	床面積 (A)	概算事業費 (B)	㎡単価 (B/A)
大ホール	700 席	3,600 ㎡	25.6 億円程度	71.1 万円

H 市基本計画

	座席数	床面積 (A)	概算事業費 (B)	㎡単価 (B/A)
大ホール	1,200 席	10,000 ㎡～	55 億～	54.5～55 万円
小ホール	300 席	11,000 ㎡	60 億円	